

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 27 年 (2015 年) 第 52 週 (12 月 21 日～12 月 27 日)

発行年月日:平成 28 年 (2016 年) 1 月 6 日
 発行 行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:eh4505@pref.shiga.lg.jp

- 1) 小児科定点から報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症および A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 2) 感染性胃腸炎は、全県で減少するも、大津市、草津、彦根および長浜保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
 - ・ 彦根および長浜保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
 - ・ 長浜保健所管内では警報開始基準値を超過
- 3) RS ウイルス感染症は、全県で増加、大津市、甲賀、東近江および高島保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
 - ・ 東近江および高島保健所管内では継続的に多く報告
- 4) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で減少するも、大津市、東近江および高島保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
 - ・ 大津市、東近江および高島保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
- 5) 咽頭結膜熱および突発性発疹は、全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
- 6) インフルエンザは、大津市および甲賀保健所管内で定点当たり報告数が「1.0」を超過

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 52 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 6例	肺結核(60歳代男性、80歳代男性;3例、80歳代女性)、結核性胸膜炎(80歳代男性)
	三類感染症	報告なし	
	四類感染症	レジオネラ症 1例	肺炎型(90歳代男性)
	五類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例	A群(80歳代女性)
		後天性免疫不全症候群 1例	AIDS(40歳代男性、同性間性的接触)
侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例		血清型不明(70歳代男性)	
	侵襲性肺炎球菌感染症 1例	血清型不明(80歳代男性)	
	破傷風 1例	70歳代男性	
第 51 週以前の診断例(*)		報告なし	

(*)平成27年 第 1 週以降に診断され平成27年第 52 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 27 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(52週)							平成27年累計		平成26年累計※	
		51週	52週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	5	6	2	2	0	2	0	0	0	218	23,695	229	25,780
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	156	1	158
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	3,553	86	4,131
四類	E型肝炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	210	0	151
	A型肝炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	240	2	432
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	61
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	289	0	340
	レジオネラ症	0	1	1	0	0	0	0	0	0	29	1,576	16	1,236
	五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1,084	12
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	249	0	226
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症***	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	1,640	5	313
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	490	1	459
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	185	0	178
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	1	0	0	0	0	0	0	16	425	6	273
	後天性免疫不全症候群	0	1	1	0	0	0	0	0	0	10	1,408	9	1,518
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	1	68
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	1	0	0	0	0	1	0	0	3	247	4	196
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1	1	0	0	0	0	0	0	34	2,327	19	1,777
	水痘(入院例)***	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	304	1	137
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	37
	梅毒	3	0	0	0	0	0	0	0	0	13	2,638	7	1,661
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	116	0	35
	破傷風	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	117	1	126
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	162	0	321
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	2	232

※ :平成27年1月現在の暫定数

※※ 平成26年9月19日より全数把握対象の五類感染症に追加

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

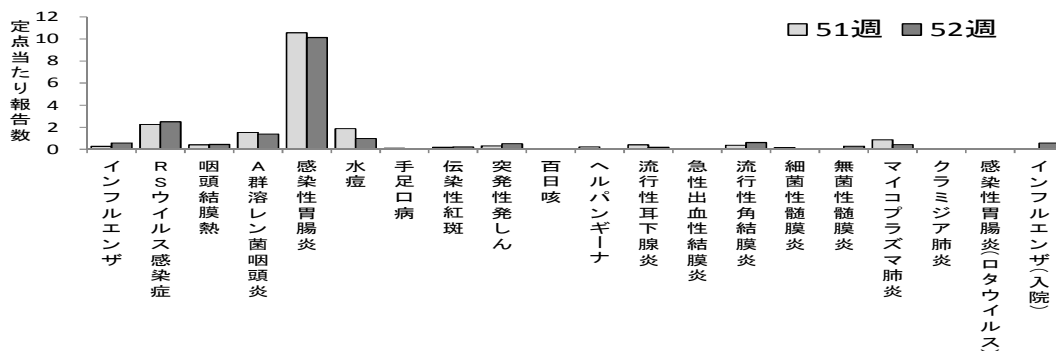
警報: 感染性胃腸炎 長浜保健所管内(警報開始基準値;20、警報終息基準値;12)

注意報: なし

滋賀県の定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超えた場合および定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令します。

- 1) 小児科定点から報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症およびA群溶血性レンサ球菌咽頭炎です。
- 2) 感染性胃腸炎は、全県で減少するも、大津市、草津、彦根および長浜保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - ・ 彦根および長浜保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
 - ・ 長浜保健所管内では警報開始基準値を超えました。
- 3) RSウイルス感染症は、全県で増加、大津市、甲賀、東近江および高島保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - ・ 東近江および高島保健所管内では継続的に多く報告されています。
 - ・ 1歳未満(50%)で最も多く、1歳以下で89%が報告されています。
- 4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で減少するも、大津市、東近江および高島保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - ・ 大津市、東近江および高島保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
 - ・ 5歳(16%)で最も多く、5~8歳で50%が報告されています。
- 5) 咽頭結膜熱および突発性発疹は、全県では過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - ・ 咽頭結膜熱は、1歳(21%)および4歳(21%)で最も多く、1~5歳で79%が報告されています。
 - ・ 突発性発疹は、1歳未満(50%)で最も多く、全症例が2歳以下です。
- 6) インフルエンザは、大津市および甲賀保健所管内で定点当たり報告数が「1.0」を超えました。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

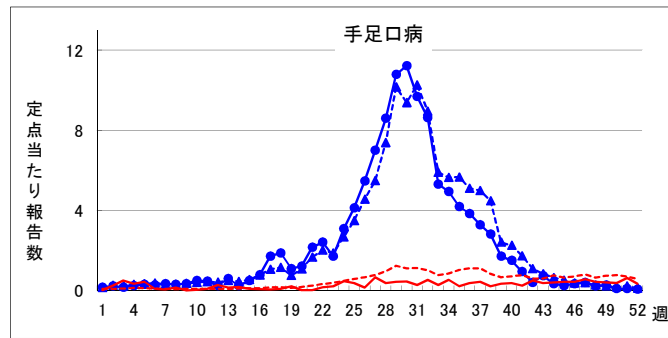
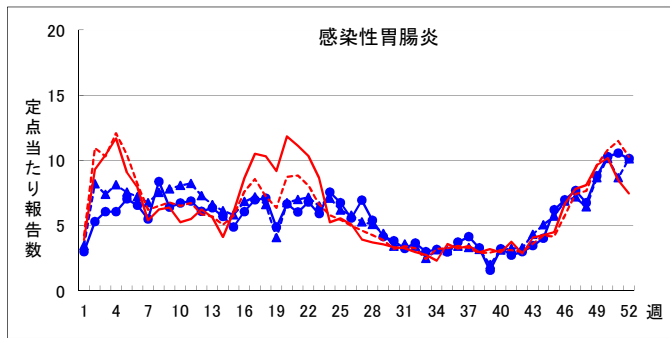
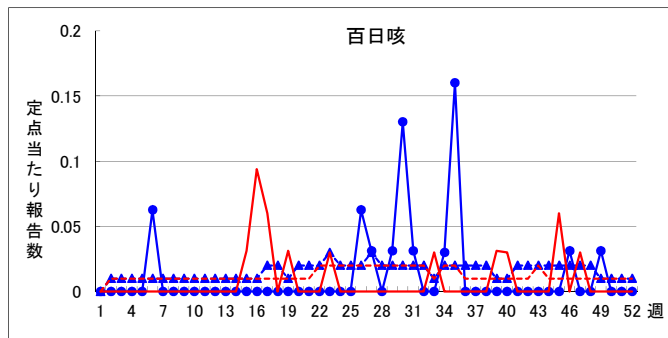
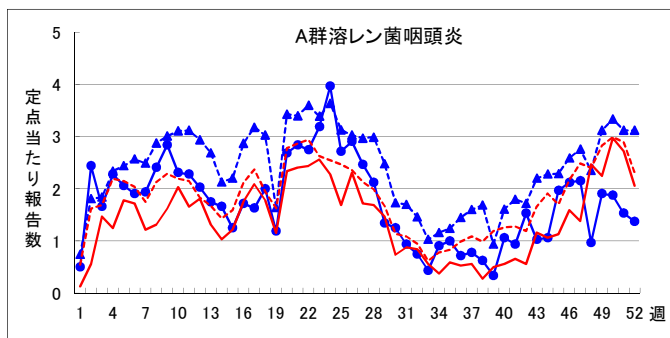
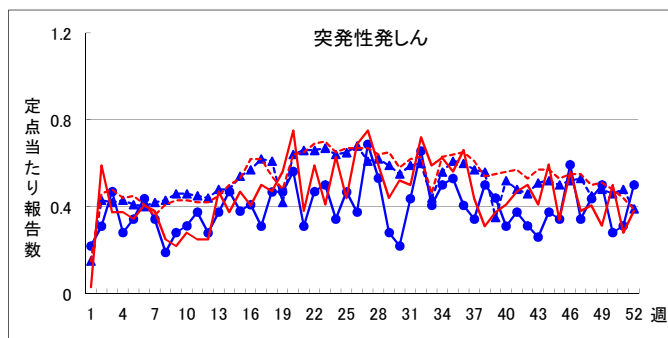
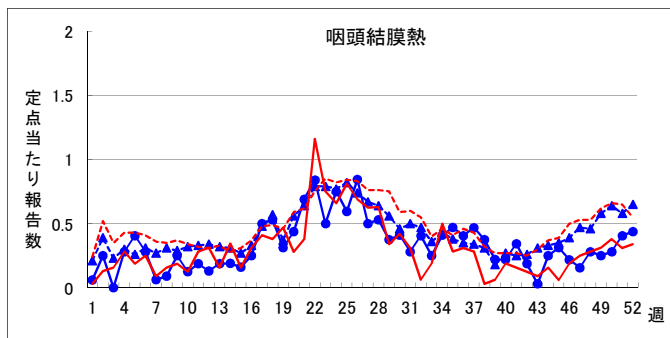
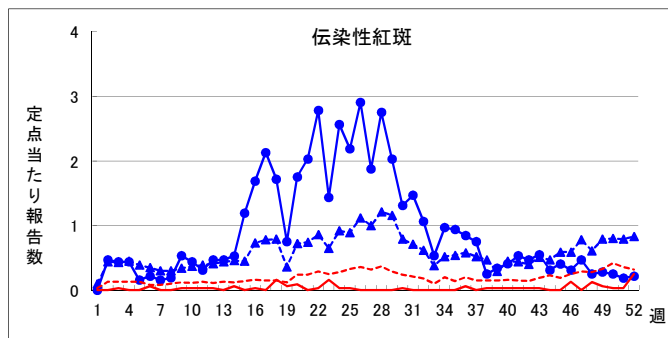
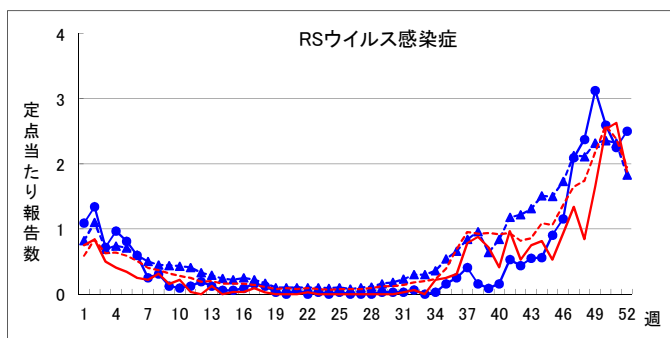
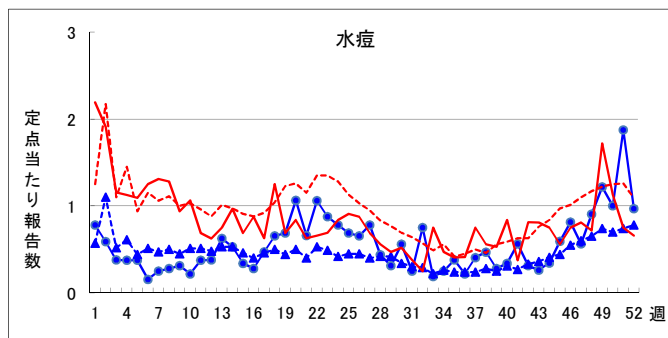
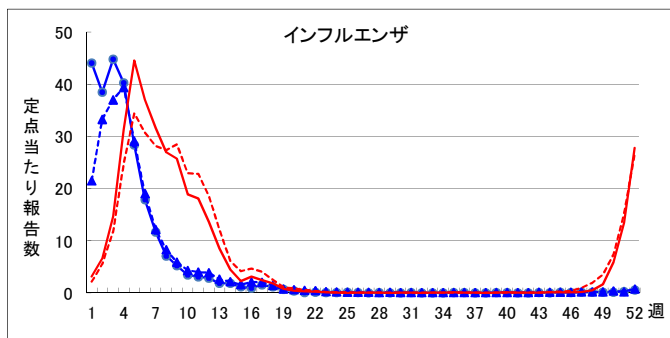
週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(52週)						
		51週	52週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.26	0.57	1.45	0.20	1.00	0.13	0.14	0.29	0.33
小児科 (32)	RSウイルス感染症	2.25	2.50	2.14	1.67	2.50	5.80	1.75	0.75	3.00
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.41	0.44	0.71	0.17	0.25	0.40	0.25	0	2.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.53	1.38	3.14	1.17	0.25	1.40	0.25	0.50	2.00
	感染性胃腸炎	10.56	10.13	9.86	6.67	6.25	8.80	13.25	21.00	4.50
	水痘	1.88	0.97	1.43	1.67	0.75	0.20	0	1.00	1.50
	手足口病	0.09	0.06	0	0	0	0.20	0	0	0.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.19	0.22	0.29	0.33	0.25	0	0	0.25	0.50
	突発性発しん	0.31	0.50	1.29	0.50	0	0.20	0	0.50	0.50
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	0.22	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科 (8)	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.41	0.19	0.43	0	0	0.40	0	0.25	0
	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹 (7)	流行性角結膜炎	0.38	0.63	0	0	4.00	0	0	0	1.00
	細菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0.29	0	2.00	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.86	0.43	1.00	0	2.00	0	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)	0	0.57	2.00	0	0	0	0	2.00	0

赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
 赤字: 注意報レベルの基準値を超過

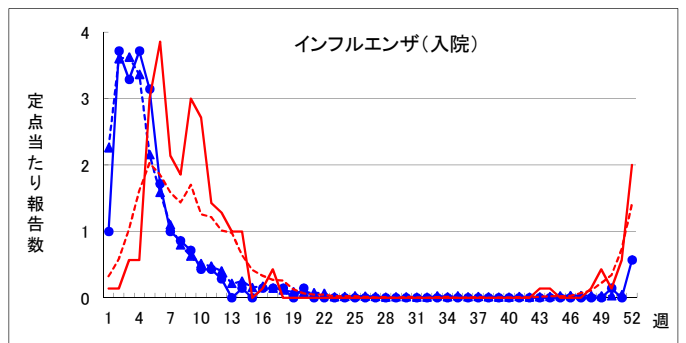
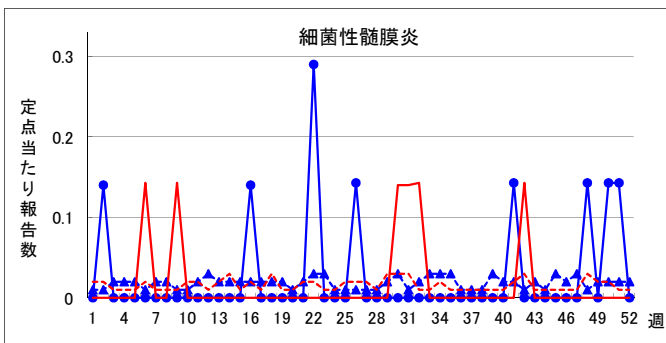
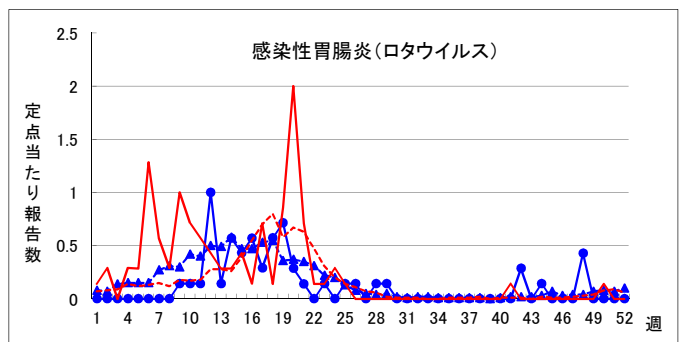
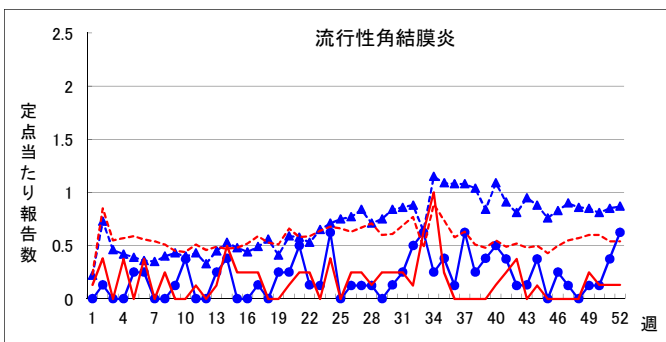
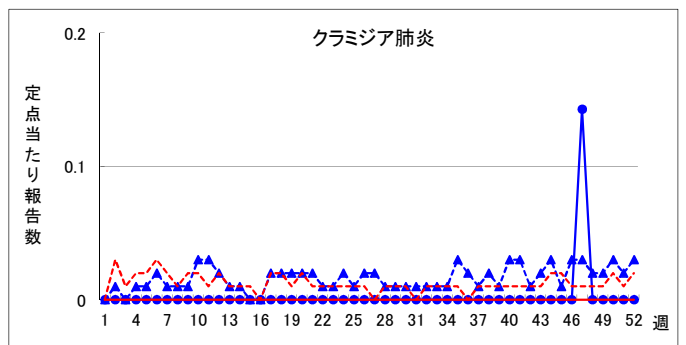
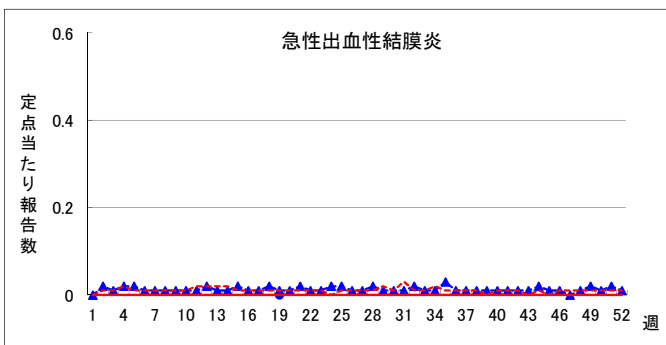
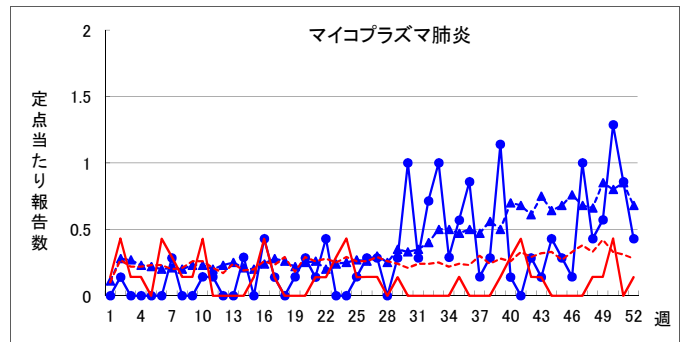
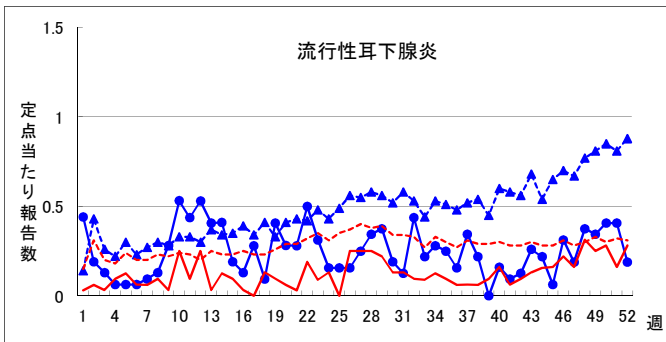
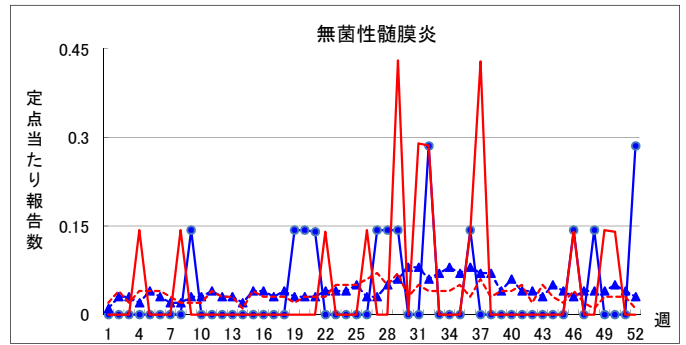
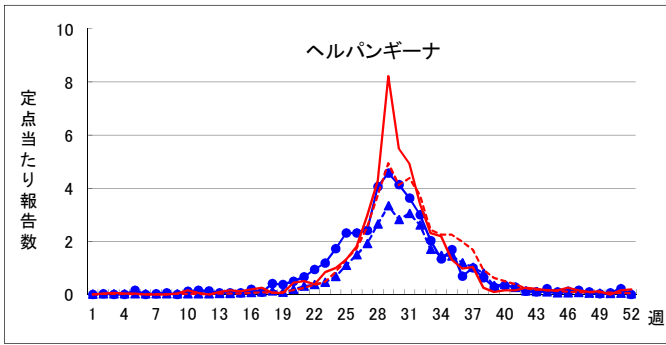
5-1. 疾病別定点当たり報告数 平成27年第52週

- - - 平成26年 全国 — 平成26年 滋賀県
- - - ▲ 平成27年 全国 —● 平成27年 滋賀県



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成27年第52週

- - - 平成26年 全国 平成26年 滋賀県
 -▲- 平成27年 全国 平成27年 滋賀県



RSウイルス感染症の発生動向 平成27年第52週

- RSウイルス感染症は、RSウイルス（respiratory syncytial virus : RSV）を病原体とする乳幼児に多い急性呼吸器感染症です。
 - 乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の50~90%がRSウイルス感染症です。
 - 例年、12月に報告数のピークを認めます。
- 滋賀県における平成27年第52週（定点当たり報告数；2.50）は
 - 過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - 東近江および高島保健所管内で継続的に多く報告されています。
 - 1歳未満（50%）で最も多く、1歳以下で89%が報告されています。
- 第52週に近隣府県では、和歌山県（3.81）、兵庫県（3.71）、奈良県（3.71）、三重県（3.04）、大阪府（2.81）で高い値を示しています。

感染性胃腸炎の発生動向 平成27年第52週

- 感染性胃腸炎は、細菌やウイルス等によって下痢やおう吐などの症状が出る感染症です。
 - 例年、12月に報告数のピークを迎え、ノロウイルスは主な原因として推定されています。今シーズンは新たなタイプのノロウイルス（GII.17 変異株）の流行が懸念されています。
- 滋賀県における平成27年第52週（定点当たり報告数；10.13）は
 - 過去5年の同時期と比較して高い値で推移しています。
 - 彦根および長浜保健所管内では他保健所管内よりも多く報告され、長浜保健所管内では警報開始基準値を超えました。
- 第52週に近隣府県では、三重県（14.02）、兵庫県（11.64）で高い値を示しています。

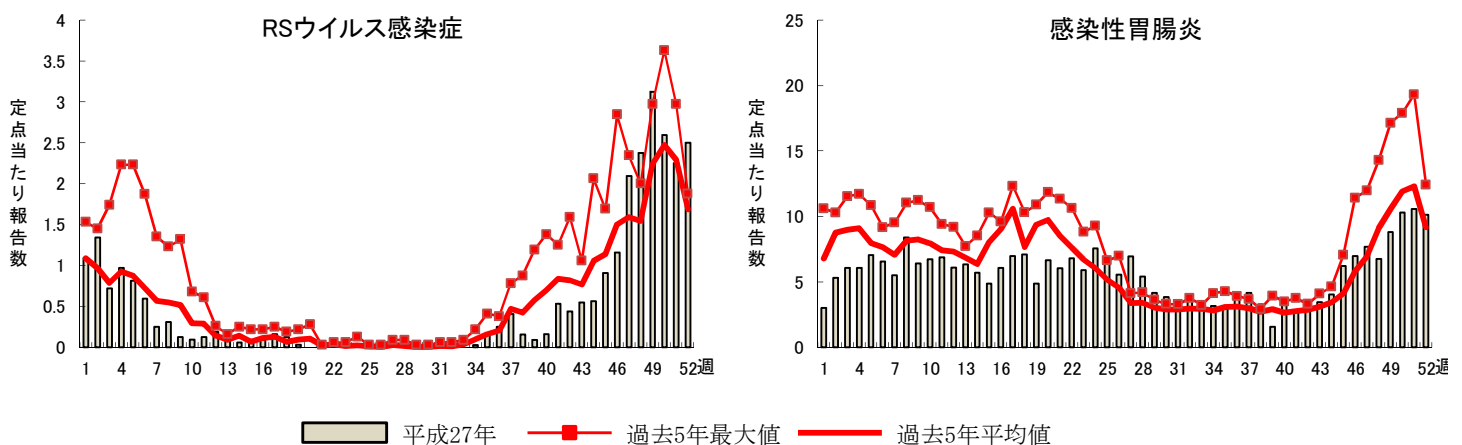


図. RSウイルス感染症および感染性胃腸炎の発生動向（滋賀県）